

# 訓練時における事故防止対策

令和2年2月18日

大東四條畷消防組合

# — 目 次 —

I	はじめに	.....1
II	事故等の発生状況	.....2
III	事故防止対策の概要	.....5
IV	事故防止対策の取り組み一覧	.....6
V	具体的な取り組み内容	.....7

# I はじめに

消防職場は、市民の生命・身体・財産を守るという崇高な使命のもと、災害現場で安全・確実・迅速な部隊行動を遂行することが求められており、時には過酷な状況下で活動を強いられることになり、一定の確率で事故が発生することも否定できません。

しかし、そのような状況下においても事故に結び付く可能性を十分に認識し、安全に配慮した活動が求められ、訓練時においては、その配慮がより強く求められることは言うまでもありません。しかしながら訓練時における公務災害は毎年発生しており、現場活動を安全に遂行するための礎となる訓練において、受傷事故を発生させない体制の再構築が喫緊の課題となっています。

今後、公務災害を発生させないためには、これまでの安全管理担当者の養成をはじめ、訓練隊員の安全教育や不安全行動への指導などに加え、各種訓練に関する安全管理をマニュアル化するなど、より一層の高い水準で、持続性のある安全管理を行うことが必要です。

このことから、訓練における安全管理体制等を総点検し、管理体制の見直しや新たな安全対策を講じるなど、今後の訓練において職員の受傷事故を撲滅するため、総力を挙げて事故防止対策に取り組みます。

## Ⅱ 事故等の発生状況

全国の平成29年中における公務により死亡した消防職員は15人、消防団員は3人、同じく負傷した消防職員は1,278人、消防団員は1,036人となっており、その多くが訓練に起因するもので、消防職員においては、死者が10人(55.6%)、負傷者が452人(50.3%)発生しています。

### 1. 消防職員及び消防団員の公務による死傷者数

(平成29年中 単位：人)

区 分		消防職員	消防団員	計	構成比 (%)
火 災	死 者	1	0	1	5.6
	負 傷 者	194	163	357	15.4
風 水 害 等 の 災 害	死 者	1	1	2	11.1
	負 傷 者	12	19	31	1.3
救 急	死 者	0	0	0	0
	負 傷 者	258	0	258	11.1
演 習 ・ 訓 練 等	死 者	10	0	10	55.6
	負 傷 者	452	713	1,165	50.3
特 別 警 戒	死 者	0	0	0	0
	負 傷 者	2	16	18	0.8
捜 索	死 者	0	1	1	5.6
	負 傷 者	6	11	17	0.7
そ の 他	死 者	3	1	4	22.2
	負 傷 者	354	114	468	20.2
計	死 者	15	3	18	100
	負 傷 者	1,278	1,036	2,314	100

(備考)1「消防防災・震災対策現況調査」により作成

2 小数点第二位を四捨五入のため、合計等が一致しない場合がある。

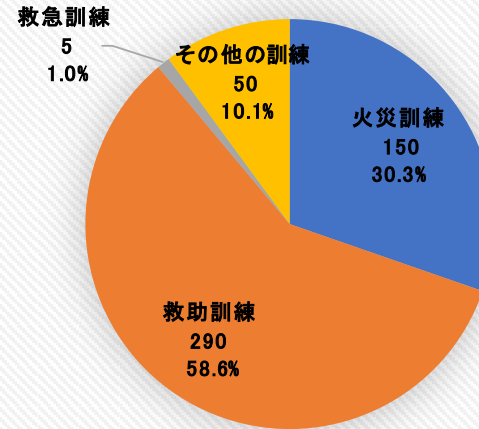
資料：平成30年版消防白書

## 2. 演習・訓練時の事故等発生数

訓練種別	事故等発生数	割合
火災訓練	150	30.3%
救急訓練	5	1.0%
救助訓練	290	58.6%
その他の訓練	50	10.1%
計	495	100.0%

救助訓練が半数以上を占めています。

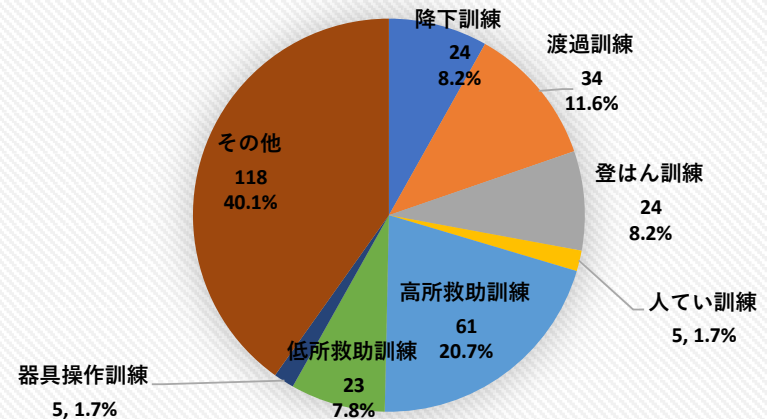
## 演習・訓練時の事故等発生数



## 3. 救助訓練の活動内容ごとの事故発生数

活動内容	事故等発生数	割合
降下訓練	24	8.2%
渡過訓練	34	11.6%
登はん訓練	24	8.2%
人てい訓練	5	1.7%
高所救助訓練	61	20.7%
低所救助訓練	23	7.8%
器具操作訓練	5	1.7%
その他	118	40.1%
計	294	100.0%

## 救助訓練時の活動内容別発生件数



#### 4. 当消防組合における過去5年間の事故発生状況

年 度	災害活動		救急活動		演習・訓練		その他		合 計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
平成26年度	1	1	4	4	3	3			8	8
平成27年度					1	1			1	1
平成28年度	1	1	3	3	2	2	1	1	7	7
平成29年度			2	2	1	1	1	1	4	4
平成30年度	1	5			2	3	1	1	4	9
合 計	3	7	9	9	9	10	3	3	24	29

##### (訓練別事故発生状況)

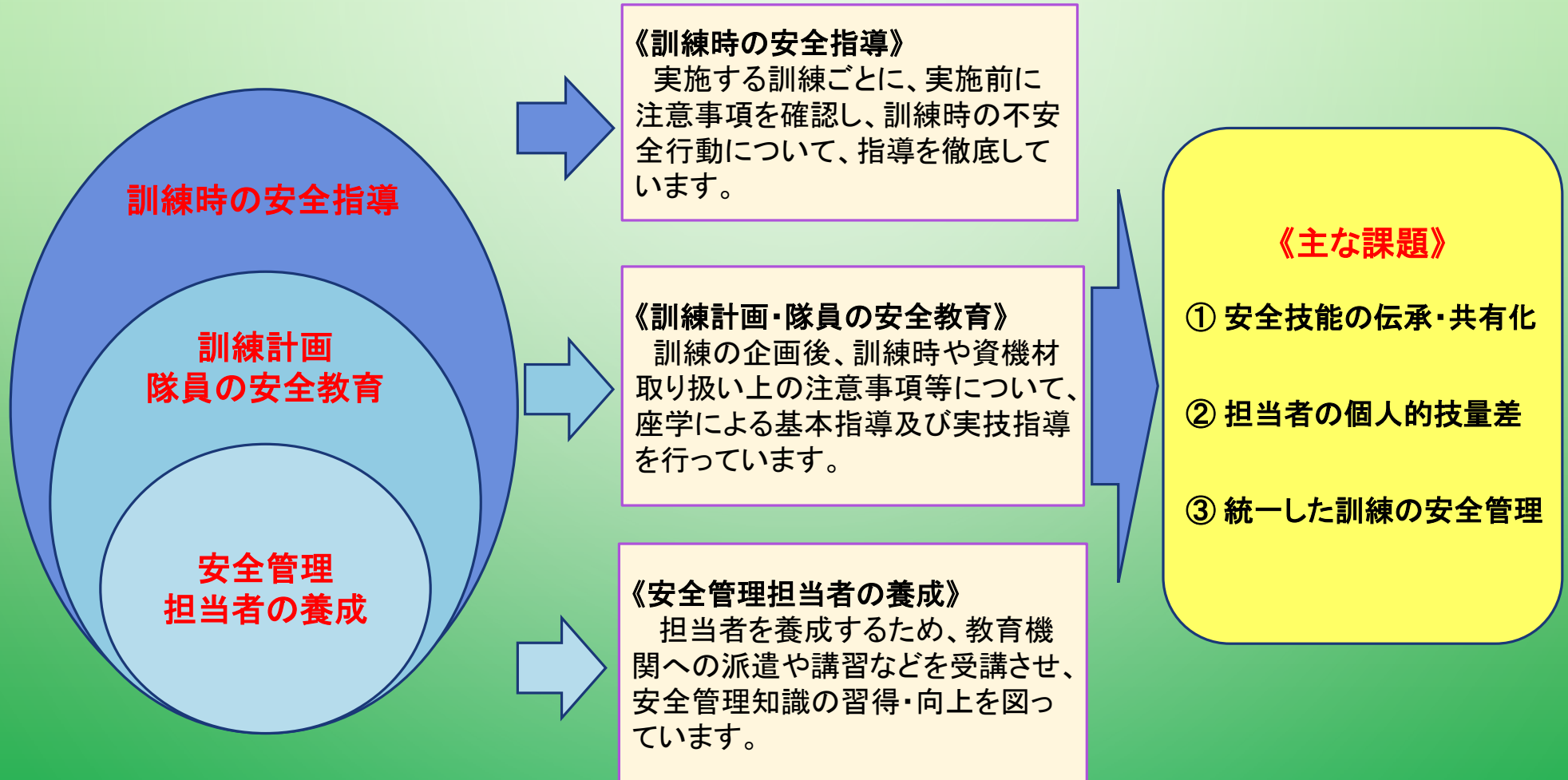
訓練種別	火災訓練		救急訓練		救助訓練		その他の訓練		合 計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
5年間集計	5	6			3	3	1	1	9	10

全国の事故発生状況を見ると、訓練に起因する事故が最も多く発生しており、訓練種別では、救助訓練中の事故の割合が50%を超えており、最も危険性が高い訓練であることを示しています。

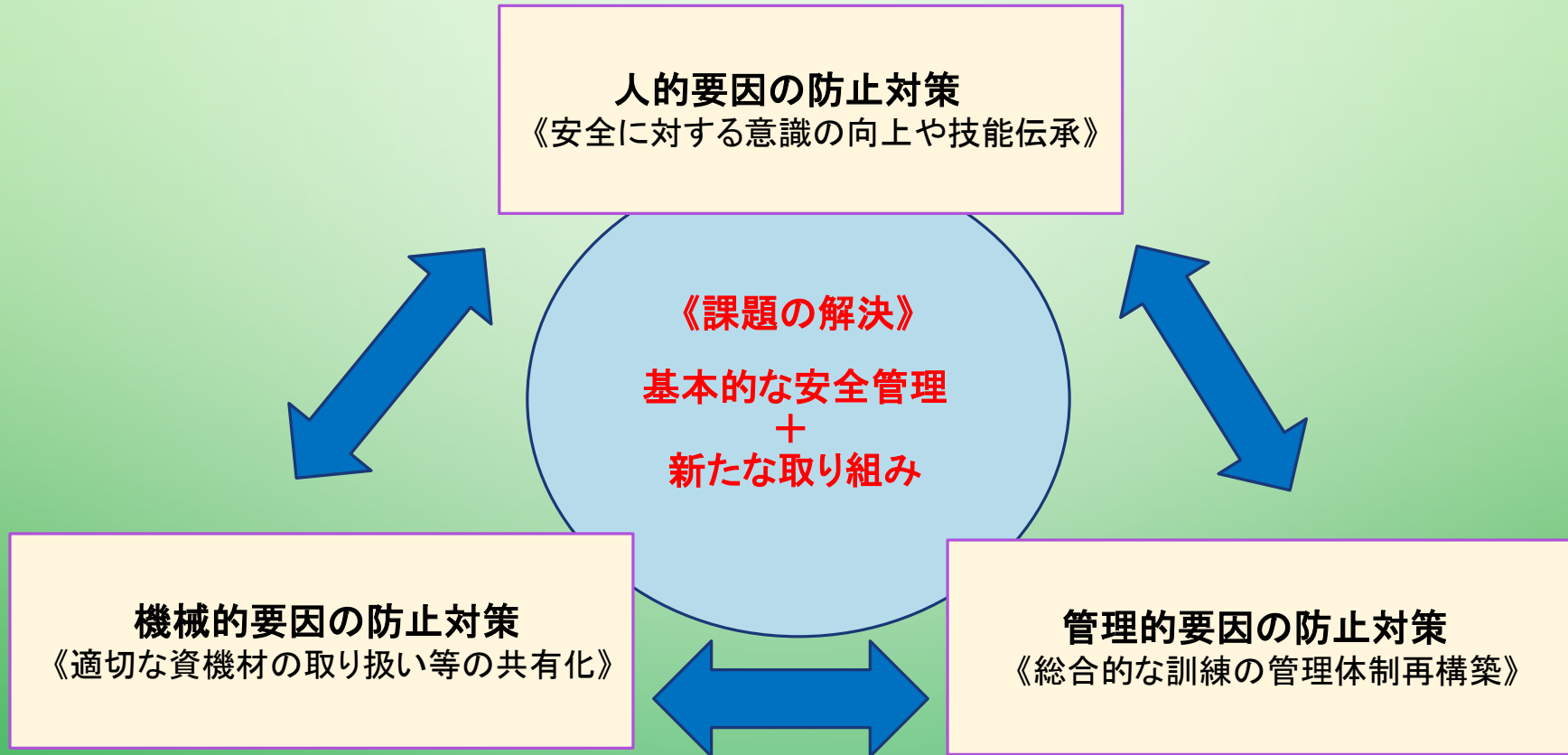
一方、当消防組合における過去5年間の事故発生状況を見ると、24件の受傷事故が発生し、29人が負傷しています。起因種別では、近年出場が増加している救急活動中の事故も多くなっていますが、訓練中の事故は毎年発生しており、やはり最も多くなっています。また、その内訳を見ると、当組合の場合、火災訓練が9件中5件と最も多くなっています。

### Ⅲ 事故防止対策の概要

#### 1. 基本的な安全管理



## 2. 新たな取り組みによる安全管理





## IV 事故防止対策の取り組み一覧

<b>人的要因の防止対策</b>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 消防長による訓練時の事故防止宣言</li><li>2. 安全管理担当者研修の実施</li><li>3. 全職員を対象とした安全管理研修の実施</li></ol>
<b>機械的要因の防止対策</b>	<ol style="list-style-type: none"><li>4. 資機材取り扱い台帳の整備・活用</li><li>5. 訓練時における安全管理マニュアルの活用</li></ol>
<b>管理的要因の防止対策</b>	<ol style="list-style-type: none"><li>6. 訓練時安全管理要綱の改正</li><li>7. 安全衛生委員会の充実・強化</li></ol>

# V 具体的な取り組み内容

## 1. 消防長による訓練時の事故防止宣言

### 目的

組織全体で安全管理に取り組むにあたり、消防長が全職員に向けて事故防止に対する決意を表明することで、職員の安全対策に向けた共通認識と安全意識の向上を図る。

### 内容

消防長による決意表明となる通知文を発信するとともに、消防長が直接職員に安全対策に対する考えを訓示し、全職員が共通認識を持ったうえで、今後の取り組みを推進する。

### 参考資料

- ・訓練時の事故防止宣言

### 実施日

文書の発信：令和2年1月6日  
消防長訓示：令和2年1月14日、17日

### 訓練時の事故防止宣言

#### 【基本的な考え方】

消防職場は、市民の生命・身体・財産を守るという崇高な使命のもと、災害現場において確実・迅速な部隊行動の遂行が求められる。

時には過酷な状況下で活動を強いられ、事故が発生する可能性も否定できないが、あらゆる要因が事故に結び付く可能性を十分に認識し、最大限に安全配慮がなされるべきである。

したがって、そういった災害活動の基礎となる訓練時において、まず高い安全配慮が求められ、その事故防止は完全と言えなければならない。

しかしながら、組合発足以来、訓練時における事故が発生しなかった年はなく、顧みればそれらはすべて防ぎ得た事故ではないかという認識に立つべきと考える。

今後、各訓練における安全管理体制の総点検を早急に行い、訓練時の安全配慮を徹底するとともに、事故の防止に向け組織全体で、高い安全意識を構築する。安全管理を担う管理監督的な立場の職員はもとより、訓練に従事する各職員において、安全に対する配慮をより一層徹底し、事故防止に万全を期するよう示達する。

#### 【宣言】

我々大東四條畷消防職員は、的確な訓練の積み重ねこそが、市民の生命・身体・財産を守るという崇高な使命の完遂に繋がることを確信し、訓練時の事故防止に向けて全力で取り組むことを宣言する。

#### 【実践項目】

- 1 安全管理研修及び安全管理担当者への安全管理教育の実施
- 2 訓練実施責任者及び安全管理担当者における役割の明確化
- 3 安全管理担当者による訓練の安全点検に関する体制の確立
- 4 訓練実施責任者による訓練前教育の徹底と危険事例の共有
- 5 検証を要する訓練時の事故に対して安全衛生委員会の即時開催

令和2年1月6日

大東四條畷消防本部  
消防長 牧野 功

## 2. 安全管理担当者研修の実施

### 目的

訓練時において、安全管理の担当者となる職員を対象に研修を実施することで、安全管理の重要性再確認と安全技能の向上を図り、訓練時における安全管理を徹底し、事故を防止する。

### 内容

対象者:安全管理を担当する職員(主査以上の職員)

講師:副署長(安全管理者)

講義内容:(1)安全配慮義務について  
(2)安全管理要綱の改正内容について  
・計画的な訓練の実施と実施手順  
・新たな安全管理体制  
・安全管理点検表の確認方法  
(3)資機材台帳及び安全管理マニュアルの活用  
(4)ヒヤリハット報告書の活用について

その他:次年度以降、継続して新対象者に実施

### 実施日

令和2年3月1日～3月31日までの間

## 3. 全職員を対象とした安全管理研修の実施

### 目的

訓練に従事する職員一人ひとりが、自らの身体は自らが守るという基本理念を再確認するとともに、安全に対する高い意識を職員間で共有し、訓練時における事故を防止する。

### 内容

対象者:全職員

講師:消防大学校幹部科修了者及び外部講師

講義内容:消防大学校幹部科で高度な安全管理知識を習得した職員及び他の消防で安全管理の経験を積んだ外部講師による経験や事故事例から、事故の発生要因や事故防止のための心構え等を講義

その他:次年度以降、新人職員の教養で実施

### 実施日

令和2年4月1日及び10月1日

## 4. 資機材取り扱い台帳の整備・活用

### 目的

救助工作車をはじめとする各車両の積載資機材について、各署所各隊で個別に資機材の取り扱い台帳を整備し、資機材の誤った取り扱いによる事故を防止する。

### 内容

各隊の車両積載資機材について、能力範囲、禁止事項、使用上の注意事項等を取りまとめた台帳を作成、ファイルに整備し、訓練前に資機材の注意点等を確認・共有することで、資機材の正しい取り扱いにより、安全な訓練を実施する。

#### 参考資料

- ・資機材取り扱い台帳(一例)

### 実施日

今年度中に整備・運用を開始し、必要に応じて更新

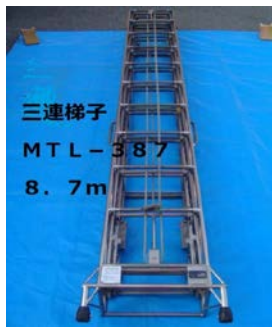

資機材取り扱い台帳 (一例)

資機材名	空気式救助マット(スーパーソフトランディング)		
本体画像 I			
本体画像 II			
積載車両	嘜救助工作車	購入日	平成24年9月
メーカー	藤倉航装株式会社	型式	—
能力範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地上15m、体重120kgまで救助可能</li> <li>・本体サイズ: 一辺長約2.4m、対辺長約4.15m、高さ約2mの正六角柱</li> <li>・使用空気量: 約240ℓ (14.7Mpaボンベ2本分、29.4Mpaボンベ1本分)</li> <li>・本体の重量: 約60kg</li> </ul>		
禁止事項	点検及び訓練における隊員等の降下は厳禁		
使用時の注意事項	※ 必要に応じて資料等添付		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・組み立て時の空気圧が設定圧以上になると上部の排気弁から減圧される構造のため、排気があるまで送気を行うこと。</li> <li>・設置時は、水平で、かつ周囲5m以内に障害物のない場所とすること。</li> <li>・要救助者に降下させる時の声掛け 「真ん中の緑色の部分をめがけて足から飛んでください」 「頭から飛び降りない」</li> <li>・従来の確保型に比べ、本体が自立するため救助者も安全である。</li> </ul>			

資機材取り扱い台帳（一例）

資機材名		チェーンソー	
本体画像 I			
本体画像 II			
積載車両	暖救助工作車	購入日	平成23年
メーカー	KIORITZ	型式	共立チェーンソー CSV6000
能力範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>長さ448mm 幅245mm 高さ292mm</li> <li>空冷2サイクル単シリンダ 排気量59.8ml ダイアフラム式 スパークプラグ NGK BPM 8 Y</li> <li>【燃料】タンク容量0.57ℓ 混合比レギュラーガソリン:2サイクルエンジンオイル[50:1]</li> <li>【オイル】やまびこチェンオイル タンク容量0.3ℓ 自動給油方式</li> </ul>		
禁止事項	<b>キックバックゾーンの禁止 落とし掛けは始動方法は禁止</b>		
使用時の注意事項	※ 必要に応じて資料等添付		
<p>・必ず左手はハンドル、右手はスロットルトリガーを握って使用すること。</p> <p>・ゴーグル及び皮手袋を必ず着装し、状況によりマスクも着装すること。</p> <p>・切創防止用保護衣を着用して使用すること。</p> <p>※令和元年9月26日付け消防消第169号により、労働安全衛生規則の一部を改正する省令による改正後の労働安全衛生規則及び安全衛生特別教育規程の一部を改正する件による改正後の安全衛生特別教育規程参照</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キックバックに注意すること。</li> <li>※回転キックバック(ガイドバー先端の接触が瞬間的にキックバックを引き起こし、作業者の方向に跳ね返ってくるもの)、直線キックバック(ガイドバーが木にはさまれてチェーンソーが動かなくなったとき、回転数を上げると急に後方に押し出されるもの)</li> <li>1日の使用時間は2時間以内とし、連続使用は10分以内とする。</li> <li>切断時は高速回転で使用すること。</li> <li>給油後は給油した場所から3m離れてエンジンを始動させる。</li> <li>適正なチェーンソーの張り具合はガイドバーの下側に軽く接触し、手で動かせる状態とすること。</li> </ul>			

資機材取り扱い台帳（一例）

資機材名		三連梯子	
本体画像 I			
本体画像 II			
積載車両	暖救助工作車	購入日	平成3年12月
メーカー	森田ポンプ株式会社	型式	チタン MTL-387
能力範囲	全伸梯8.7m 全縮梯3.55m 重量kg25.0kg 横さん1段の許容荷重180kg		
禁止事項	<b>確保及び結着が無い状況での昇梯は厳禁</b>		
使用時の注意事項	※ 必要に応じて資料等添付		
<p>・梯子登梯時及び進入時は常に三点支持とすること。(転落危険あり)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伸梯時、確実に掛け金がかかっていることを確認すること。</li> <li>引き綱処理前に仮架梯することで三連梯子の修正等は容易になるが、要救助者が三連梯子に乗り移る可能性を想定しておくこと。</li> <li>2連目だけ伸梯し、3連目が伸梯されていないとスライド落下(中落ち)のリスクを想定しておくこと。</li> <li>概ね腕を伸ばして横さんを握った角度は75度とし、この角度を超える若しくは以下で登梯するときは、登りにくく落下する危険があることを認識しておくこと。</li> <li>梯子を結着するまで、必ず1名以上は常時梯子の確保をすること。(接触や風揺れ等で転倒する恐れあり)</li> <li>基底部分移動は2名で行い、1名が先端、もう1名が基底部分を見て先端→基底部分→先端→基底部分の順に小刻みに動かすこと。</li> </ul>			



## 5. 訓練時における安全管理マニュアルの活用

### 目的

各種訓練の危険性に対する理解や安全管理を共有するため、訓練種別ごとにまとめられた消防庁の安全管理マニュアルを「資機材取り扱い台帳」と併用して活用・共有することで、訓練時の安全管理を徹底し事故防止を図る。

### 内容

#### 《マニュアルの内容》

- ① 訓練の内容
- ② 使用資機材
- ③ 安全管理のポイント
- ④ 事故事例
- ⑤ ヒヤリハット事例

参考資料 訓練時における安全管理マニュアル(見本)  
・訓練時における安全管理マニュアル(一例)

### 実施日

資機材取り扱い台帳と併用して運用

## 訓練時における安全管理マニュアル(一例)

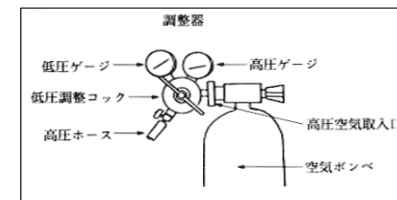
### 4 マット型空気ジャッキ取扱訓練

#### (1) 訓練の内容

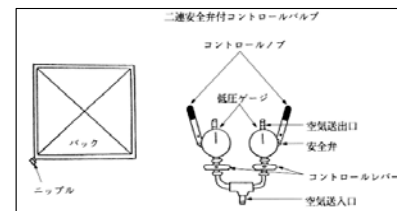
マット型空気ジャッキ取扱訓練は、災害現場において要救助者の身体が障害物に挟まれ、又は押しつぶされている場合等に、マット型空気ジャッキ（圧縮空気を利用し、特殊ゴム製の袋を膨張させる。）を使用して、持ち上げ、広げ等により比較的大規模な障害物の除去等を行う訓練である。



【マット型空気ジャッキ救助取扱訓練】



【マット型救助ジャッキ各部の名称①】



【マット型救助ジャッキ各部の名称②】

#### (2) 使用資機材

・マット型救助ジャッキ ・空気ポンペ

#### (3) 安全管理のポイント

- ① 対象物を持ち上げる前に、必要な当て木、ブロック、支柱を準備する。
- ② 対象物の重心がバックの中心部の真下になるように設定する。
- ③ バックは、徐々に膨らませる。
- ④ バックで持ち上げた後、当て木等で補強した場合であっても、必要以上に対象物の下に入らない。
- ⑤ 鋭利な対象物、又は、摂氏105度以上の対象物に使用しない。
- ⑥ バックを重ねて使用する場合は、2枚までとし、下になったバックから先に膨らませるとともに、ニップル部分が上下に重ならないように左右に分けて接続する。
- ⑦ 高圧ホースの接続は、バックを対象物の下に置く前に、ニップルが手前にくるように置く。
- ⑧ そく止弁を開く時は、すべてのバルブの閉鎖を確認するとともに、隊員相互の連携を図る。

#### (4) 事故事例

- ① 高圧ホースを圧力調整器に接続しようとした際、別の隊員が空気ポンペのそく止弁を開放したため、高圧ホースから空気が噴出し、眼部を直撃したことにより負傷した。
- ② 車両を持ち上げるため、車両下部にバックを設定しようとした際、腰部を負傷した。

# 訓練時における安全管理マニュアル(一例)

## 第2部 各論

### 第1章 消火訓練等

#### 第1節 火災防ぎょ訓練

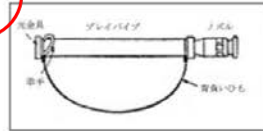
##### 1 筒先操作訓練

###### (1) 訓練の内容

筒先操作訓練は、消火する対象物に放水するため、取手、背負いひも及び可変ノズルのついた筒先を使用した筒先の背負い方、降ろし方、結合、離脱、基本注水姿勢、注水姿勢の方向、位置、注水形状の変換、筒先補助、筒先員の交替及び収納等、筒先を操作する一連の訓練である。



【筒先操作訓練】



【筒先各部の名称】

###### (2) 使用資機材

・筒先

###### (3) 安全管理のポイント

- 筒先背負いひもの長さは、訓練中に筒先がはずれたり、背負う時に支障のないようあらかじめ調整する。
- 筒先を背負う時及び降ろす時は、足下に落とさないようにする。
- 筒先操作を行う時は、周囲の安全を確認するとともに、筒先を自己の身体にぶつけないようにする。

#### 第1章 消火訓練等 第1節 火災防ぎょ訓練

- 筒先とホースの結合は完全に行い、離脱及び緩みのないよう結合状態を確認する。
- 筒先操作において移動する時は、つまずきや転倒に注意する。
- 筒先とホースを結合、離脱又は収納する時は、無理な姿勢や腰に負担のかかる動作をしないようにするとともに、指を挟まれないようにする。
- 筒先を保持する時は、体重を前方に置くように前傾姿勢をとり、放水圧力による反動力に耐えられるようにする。
- 筒先は安定かつ前後左右に移動しないように腰をおちつけた姿勢で保持する。
- 筒先員及び補助員は注水の状況に応じた安全な注水姿勢（基本注水姿勢、折ひざ注水姿勢）を整える。
- 放水中は、周囲の状況に配慮して注水するとともに、足下が濡れて滑りやすいことがあるので足下の安全を図る。
- 筒先員と補助員が注水方向及び注水位置を変換する時は、注水目標を定めた後、足下の安全を確認しつつゆっくりと連携動作を行う。
- 注水形状を切り換える時は、筒先を脇に抱え込むように確実に保持し、徐々にノズルの操作を行う。
- 筒先補助員が持ち場を離れる時は、必ず筒先員の確認呼称の後に動作する。
- 筒先員が一人で放水操作する時は、筒先圧力がかかり過ぎないようにノズルの調整又は背負いひもの横かけ等の処置をとる。
- 筒先員が交替する時は、必ず操作員相互が確認呼称を行い、安全・確実に連携動作を行う。

###### (4) 事故事例

- 筒先圧力が上がり、筒先に振られ、転倒し後頭部を負傷した。
- 機関員の誤操作により放水隊員が反動力に耐えることができず、筒先が顔面を直撃し、負傷した。
- ウォーターハンマー現象が発生したため、筒先に圧力が集中し、筒先が離脱したことにより左眼脸部を負傷した。

###### (5) ヒヤリハット事例

- 水圧で分岐まで送水し、その後一気に分岐を閉鎖してしまい、分岐から先のホースに急激に水が流れ、ホースや筒先が暴れ、周囲の隊員に衝突するようになった。
- ポンプ車送水圧力の急激な上昇により筒先員が振られ、転倒した。
- 放水している筒先前を横断したため、放水が顔面を直撃した。

- 訓練の内容
- 使用資機材
- 安全管理のポイント
- 事故事例
- ヒヤリハット事例

## 6. 訓練時安全管理要綱の改正

### 目的

計画的な訓練の実施及び訓練時の安全管理体制を明確にするなど、訓練の管理体制を再構築することを目的に要綱の全部改正を行う。

### 内容

#### 改正概要

- (1) 年間訓練計画及び月間訓練計画の策定を明記
- (2) 訓練計画書の作成及び安全管理点検表の導入
- (3) 実施した訓練の結果報告書及び検討会報告書の提出
- (4) 訓練時における訓練指揮者及び職員の責務明確化
- (5) 安全管理担当者(統括安全主任者及び安全主任者等)の役割を定め責任を明確化・・・等

#### 参考資料

- ・安全管理点検表(合同訓練)……………資料1
- ・訓練実施手順の新旧比較……………資料2
- ・訓練時安全管理体制の新旧比較……………資料3

### 実施日

令和2年4月1日施行

## 安全管理点検表(資料1)

合同訓練安全管理点検表

区分	点検内容	点検者 階級	
訓練計画時	訓練場所は適当か、また使用施設は安全か		
	訓練種目、内容に無理はないか		
	指揮系統、進行管理に無理はないか		
	隊員編成は適当か		
	訓練等の種目、内容に応じた人選となっているか		
	隊員の服装は適当か		
	使用資器材の種類、数量は適当か、また状況は良好か		
	統括安全主任者等の配置は適当か		
	降雨、降雪等の気象状況に対する配慮はなされているか		
	訓練の規模、内容に応じた事前教育は予定されているか		
訓練等実施前	緊急時の応急措置の態勢はとられているか		
	訓練場所は整理整頓されているか		
	隊員の健康状態に問題はないか、また服装は適当か		
	準備体操は適度を実施されているか		
	隊員に対する事前教育は実施されているか		
訓練等実施中	訓練施設及び機器、資機材の事前点検は実施されているか		
	統括安全主任者、安全主任者の事前打合わせは実施されているか		
	訓練の安全管理についてマニュアル等で再徹底が図れたか		
	隊員の服装に乱れや、疲労は見られないか		
	隊員は冷静で、かつ常に安全意識を持って行動しているか		
	統括安全主任者等の配置場所は適当か		
	指揮系統は確保され、規律は保持されているか		
	使用機器及び資器材の操作に無理はなく、また損傷等はないか		
	確保ロープ等、安全管理措置は講じられているか		
	訓練の進行管理に無理は生じていないか		
訓練終了後	統括安全主任者、安全主任者の連携は適当か		
	気象状況に対する措置を変更、修正する必要はないか		
	隊員の健康状態に問題はないか		
	整理体操は適度を実施されているか		
	使用施設及び機器、資機材を点検したか		
備考	安全管理に問題等はなかったか		
	訓練後事後検討会を開催する必要はないか		



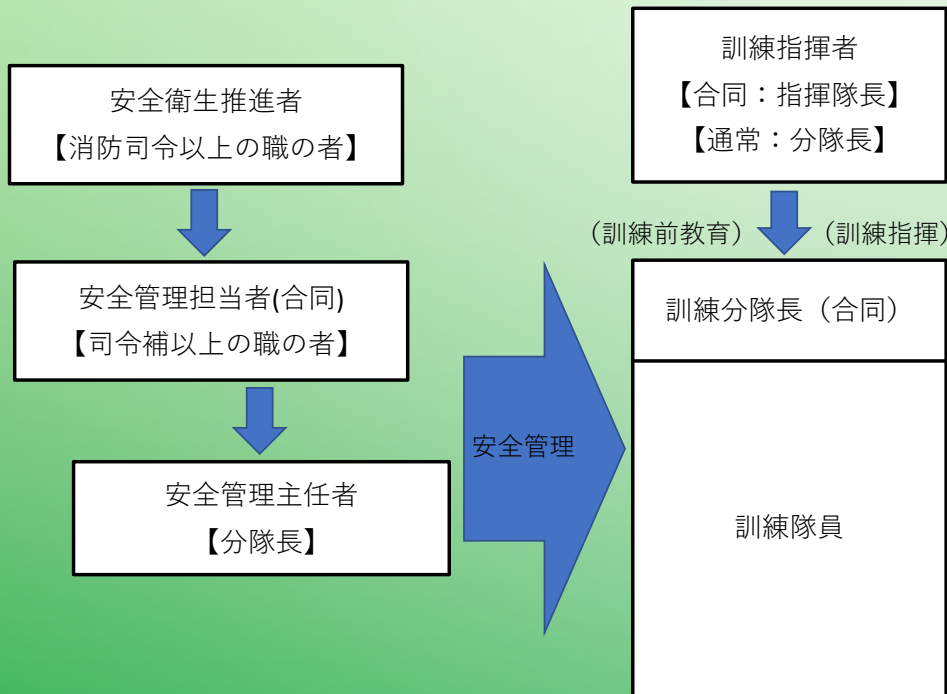
訓練実施手順の新旧比較(資料2)

No	実施手順	担当者	内 容	現行要綱		改正要綱	
				合同	通常	合同	通常
1	年間（月間）訓練計画の策定	指揮隊長（年間） 所属長（月間）	年間（月間）計画を年度（月）当初までに策定	△	△	○	○
2	訓練実施計画書の作成	訓練指揮者	実施しようとする訓練の計画書を作成	○	—	○	—
3	安全管理点検表の作成	総括安全主任者 又は安全主任者	安全点検（訓練前・訓練中・訓練後）を項目に基づき実施	—	—	○	○
4	訓練前教育の実施	訓練指揮者	訓練内容や使用資器材の取扱いに関する事前の説明等	○	○	○	○
5	訓練結果報告書の提出	訓練指揮者	安全管理担当者が実施した安全管理点検表を添付して報告	○	—	○	○
6	検討会結果報告書の作成	統括安全主任者 又は訓練指揮者	必要に応じ訓練後に実施した検討会の結果を報告	○	—	○	—

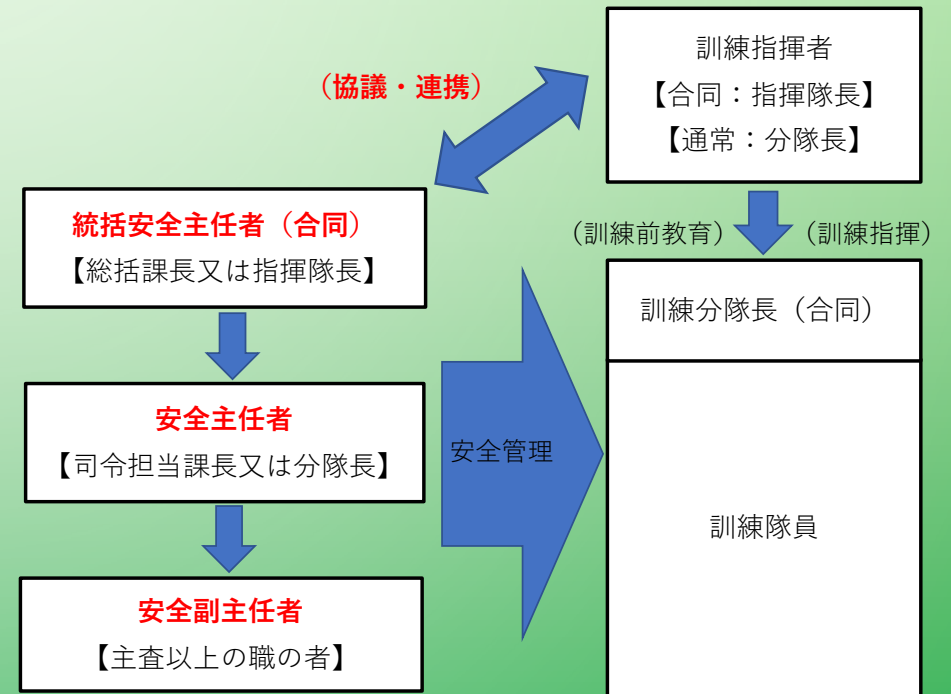
△は明記されていないが実施していたもの

# 訓練時安全管理体制の新旧比較(資料3)

## (現行体制)



## (新体制)





7. どのようなことが起きそうになってヒヤリハットしましたか

<input type="checkbox"/> 墜落・転落	<input type="checkbox"/> 転倒	<input type="checkbox"/> 激突
<input type="checkbox"/> 飛来・落下ぶつにぶつかる	<input type="checkbox"/> 崩壊・倒壊 (に巻き込まれる)	<input type="checkbox"/> (機器等) 巻き込まれ、はさまれ
<input type="checkbox"/> 切り・こすれ	<input type="checkbox"/> 踏み抜き	<input type="checkbox"/> おぼれ
<input type="checkbox"/> 高温・低温物と接触	<input type="checkbox"/> 有害物と接触	<input type="checkbox"/> 感電
<input type="checkbox"/> 爆発・破裂	<input type="checkbox"/> 交通事故	<input type="checkbox"/> 退路の消失、寸断
<input type="checkbox"/> 火傷・熱傷	<input type="checkbox"/> 腰痛	
<input type="checkbox"/> その他: _____		

8. ヒヤリハット事例体験時の活動はどのようなものでしたか

<input type="checkbox"/> 火災	<input type="checkbox"/> 風水害等の災害	<input type="checkbox"/> 救助	<input type="checkbox"/> 救急	→ 8-1 から 9へ
<input type="checkbox"/> 演習・訓練				→ 8-2 から 9へ
<input type="checkbox"/> 広報・指導	<input type="checkbox"/> 警防調査	<input type="checkbox"/> 火災原因調査	<input type="checkbox"/> 捜索	<input type="checkbox"/> 予防査察
<input type="checkbox"/> 誤報等	<input type="checkbox"/> その他: _____			→ 9へ

8-1 (「火災」「風水害等の災害」「救助」「救急」と回答の方へ) 活動のどの段階でしたか

<input type="checkbox"/> 出動準備	<input type="checkbox"/> 出動途上	<input type="checkbox"/> 現場到着	<input type="checkbox"/> 現場活動初期	<input type="checkbox"/> 現場活動中期
<input type="checkbox"/> 現場活動終了時	<input type="checkbox"/> 撤収	<input type="checkbox"/> 帰署途中	<input type="checkbox"/> 点検・整備	
<input type="checkbox"/> その他: _____				

8-2 (「訓練」と回答の方へ) どのような訓練内容でしたか

<input type="checkbox"/> 火災	<input type="checkbox"/> 救急	<input type="checkbox"/> 救助	<input type="checkbox"/> 救助指導会	<input type="checkbox"/> 警防指導会
<input type="checkbox"/> その他: _____				

9. (8の活動中で) ヒヤリハットはどのような作業中に発生しましたか

○災害現場活動の場合

(火災) ※火災の場合、[消火活動の対象物]と[活動内容]の2点についてお答えください。

[消火活動の対象物]			
<input type="checkbox"/> 木造建物	<input type="checkbox"/> 防火造建物	<input type="checkbox"/> 耐火造建物	<input type="checkbox"/> その他建物
<input type="checkbox"/> 林野	<input type="checkbox"/> 車両	<input type="checkbox"/> 船舶	<input type="checkbox"/> 航空機
<input type="checkbox"/> その他: _____			

[活動内容]				
<input type="checkbox"/> 人命検索	<input type="checkbox"/> 指揮本部設定	<input type="checkbox"/> 水利部署	<input type="checkbox"/> ホースえい航	<input type="checkbox"/> ホース延長
<input type="checkbox"/> 部署・筒先配備	<input type="checkbox"/> 放水活動	<input type="checkbox"/> 水損防止	<input type="checkbox"/> 破壊活動	<input type="checkbox"/> 進入・退出
<input type="checkbox"/> 開口部の設定及び解放	<input type="checkbox"/> 退路の確保	<input type="checkbox"/> 警備	<input type="checkbox"/> 現場広報	
<input type="checkbox"/> 車両間の移動	<input type="checkbox"/> 火点間の移動	<input type="checkbox"/> 残火整理	<input type="checkbox"/> 再燃警戒	<input type="checkbox"/> 特殊車両の使用
<input type="checkbox"/> 資機材準備・撤収	<input type="checkbox"/> その他	_____		

(風水害等の災害)

<input type="checkbox"/> 水防作業	<input type="checkbox"/> その他 ( _____ )
-------------------------------	--

(救助)

<input type="checkbox"/> 車両運行・部署	<input type="checkbox"/> 情報収集	<input type="checkbox"/> 資機材準備・撤収	<input type="checkbox"/> 救出準備作業
<input type="checkbox"/> 進入・退出	<input type="checkbox"/> 人命検索・救出	<input type="checkbox"/> 応急救護処置	<input type="checkbox"/> 活動支援
<input type="checkbox"/> その他: _____			

(救急)

<input type="checkbox"/> 応急処置	<input type="checkbox"/> 車両への収容	<input type="checkbox"/> 搬送中	<input type="checkbox"/> 病院へ引継
<input type="checkbox"/> その他: _____			

○訓練の場合

(火災)			
<input type="checkbox"/> ホース延長訓練	<input type="checkbox"/> 器具操作訓練	<input type="checkbox"/> ポンプ隊訓練	<input type="checkbox"/> 機関員訓練
<input type="checkbox"/> その他: _____			

(救助)

<input type="checkbox"/> 降下訓練	<input type="checkbox"/> 渡過訓練	<input type="checkbox"/> 肩(腰)確保	<input type="checkbox"/> 登はん訓練
<input type="checkbox"/> 人てい訓練	<input type="checkbox"/> 高所救助訓練	<input type="checkbox"/> 低所救助訓練	<input type="checkbox"/> 濃煙中救助訓練
<input type="checkbox"/> その他: _____			

(救急)

<input type="checkbox"/> 救命処置	<input type="checkbox"/> 応急処置	<input type="checkbox"/> 搬送法	<input type="checkbox"/> PA連携
<input type="checkbox"/> その他: _____			

(その他)

<input type="checkbox"/> 水防工法訓練	<input type="checkbox"/> 準備運動	<input type="checkbox"/> 体力練成・測定訓練
<input type="checkbox"/> その他: _____		

1 0. 今回と同様のヒヤリハット体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。

- 初めて体験した
- これまでに1, 2回程度体験している。
- 数年に1度程度の割合で体験している。
- 1年に数度程度の割合で体験している。

1 1. ヒヤリハットの直接的原因について質問します。

- 情報入力に問題があった。(指示や助言が聞こえなかった。近くの隊員に気付かなかった等)
- 状況判断に問題があった。(延焼の広がりか思ったより早かった等)
- 行動の意志決定に問題があった。(大丈夫だろうと思った。)
- 行動の実行に問題があった。(誤った手順を取った等)

1 2. ヒヤリハット発生時の状況について質問します。

各問にあてはまると思う場合「はい」、あてはまらないと思う場合「いいえ」を選択して下さい。

※必ず全ての設問に「はい」か「いいえ」を選んで下さい。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

- ・早く、現場到着や、活動をしなければならぬという“あせり”を感じていた  はい  いいえ
- ・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。  はい  いいえ
- ・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。  はい  いいえ

b. 注意力が欠如していた

- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。  はい  いいえ
- ・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。  はい  いいえ
- ・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。  はい  いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

- ・活動内容が、自己の能力や技量を超過していた。  はい  いいえ
- ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。  はい  いいえ
- ・活動に対する経験が不足していた。  はい  いいえ

d. 心身の不調があった

- ・体調が悪かった。  はい  いいえ
- ・悩み事があった。  はい  いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

- ・装備・資機材自体に問題があった。  はい  いいえ
- ・装備・資機材の使用法が誤っていた。  はい  いいえ
- ・装備・資機材の対処能力を超過していた。  はい  いいえ
- ・必要とする装備・資機材がなかった。  はい  いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

- ・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。  はい  いいえ
- ・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。  はい  いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

- ・狭隘な場所であった。  はい  いいえ
- ・暑かった(寒かった)。  はい  いいえ
- ・野次馬が多かった。  はい  いいえ
- ・現場周辺の地理に不案内だった。  はい  いいえ

h. 足場が悪かった。

- ・足元が躓いたり滑りやすかった。  はい  いいえ
- ・足元の強度が不足していた。  はい  いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

- ・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)  はい  いいえ
- ・指示内容に誤り・偏りがあった。  はい  いいえ
- ・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)  はい  いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

- ・隊員の連携が不十分だった。  はい  いいえ
- ・隊員が不足していた。  はい  いいえ

○その他

1. その他の理由があった。

はい  いいえ

1 3. 怪我をするにはいならず、ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思いますか?  
(あてはまる項目すべてに✓)

- 体力、反射神経等身体能力が優れていた
- 危険情報を把握、予見できた
- 危険事象の対応方法を知っていた
- 集中力、注意力があった
- 避難・退避がうまくいった
- 資機材の機能が適切だった
- 資機材の操作がうまくいった
- 個人装備が適切だった
- 周囲の視界が確保できていた
- 足元の安全が確保できていた
- 現場周辺の地理を知っていた
- 指揮者が適切に指示した
- 後方からの監視の目が行き届いていた
- 他隊(員)との連携活動がうまくいった
- 他隊(員)から適切な注意を受けた
- たまたま、事故にならなかった
- その他 具体的に：

14. ヒヤリハットの状況を図面にして下さい。※必要な場合

15. 再発防止のための改善点等について、記載して下さい。

16. その他、事故防止等に関する意見について、自由にお書き下さい。

記載ありがとうございました。  
安全衛生委員会

